

**製品名: ANKT ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab06907**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	49kDa

**抗原情報**

遺伝子名	NUSAP1
別名	NUSAP1; ANKT; BM-037; Nucleolar and spindle-associated protein 1; NuSAP
遺伝子 ID	51203.0
SwissProt ID	Q9BXS6
免疫原	抗血清はヒト NUSAP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 392-441

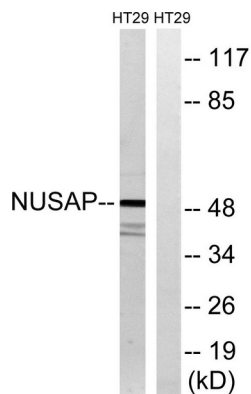
**背景**

NUSAP1 は、核小体紡錘体関連タンパク質であり、紡錘体微小管の組織化に関与する ( Raemaekers et al., 2003 [PubMed 12963707])。[OMIM 提供、2009年6月],ドメイン: KEN ボックスは、ユビキチン化に続くこのタンパク質の FZR1 依存性分解に必

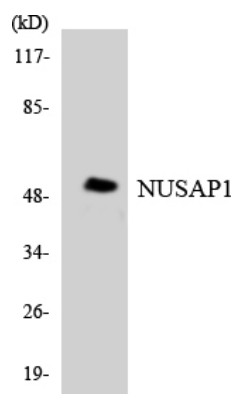
要である。機能: 微小管を束ねて安定化させる能力を持つ微小管関連タンパク質 (類似性による)。染色体と会合し、染色体周囲の有糸分裂紡錘体微小管の組織化を促進する可能性がある。PTM: DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化される。PTM: ユビキチン化される。FZR1 によるユビキチン化は、このタンパク質のプロテアソーム依存性分解につながる可能性がある。類似性: NUSAP ファミリーに属する。細胞内局在: 間期には細胞質および核小体に存在し、前中期には有糸分裂紡錘体に再分布する (類似性による)。後期および終期には有糸分裂紡錘体に局在し、細胞質分裂中には染色体周囲から消失する (類似性による)。有糸分裂中、染色体の複数の異なる領域に局在する。サブユニット: DNA および微小管と相互作用する。微小管の束形成は IPO7、KPNA2、および KPNB1 によって阻害され、DNA との結合も IPO7 および KPNA2 によって阻害される。、

## 研究分野

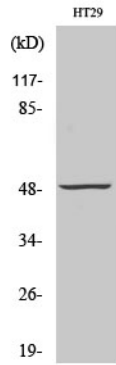
## 画像データ



NUSAP1 抗体を用いた HT-29 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



NUSAP1 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



ANKT ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析